都藝泥布

京都地名研究会　会報　第 91 号

令和 8 年 8 月 29 日　発行

題字「つぎねふ」（山城の枕詞）

揮毫　吉田 金彦氏 （初代会長）

編集　京都地名研究会事務局

2026 年 4 月 26 日（日）に第 24 回京都地名研究会／総会・講演会を、龍谷大学大宮学舎東黌 303 で開催しましたところ、48 名の方（会員 33 名・非会員 13 名　講師 2 名）にお運びいただきました。どうもありがとうございました。

総会では、梅山秀幸理事の議事進行で、1・2 号議案とも拍手で承認されました。第 3 号議案の人事では 2019 年から会長を務められた小寺慶昭氏が健康上の理由で退任され名誉会長に、新会長には、中島　正理事がそれぞれ就任する人事案が提案され、了承されました。他に新運営委員に小西　亘理事、会計は岩田　貢理事から山内卓郎理事に交代、新理事に佐古田英樹氏がそれぞれ選任されました。小寺氏は、諧謔の精神と旺盛な探究心で 7 年間、本会の自由闊達な気風を築いてくださいました。改めてお礼を申し上げます。中島新会長には、多様なお役目がある中、お引き受けいただきました。今後ともどうぞよろしくお願いします。講演会の内容を以下にまとめましたので、ご覧ください。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

講演 1　近世京都における個別町の空間と社会

発表者　田坪　賢人氏

（堺市学芸員/大阪公立大学大学院文学研究科客員研究員）

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

田坪氏は今回の講演のために本編と資料編のＡ３・計９枚の膨大な資料を提供された。町名研究に取り組んでいる本会の活動に大いに資するものである。



（田坪　賢人氏）

26 年の 3 月で京都府立京都学歴彩館の京都学推進課京都学推進研究員を離任され、新年度から現職に就かれるなど、ご多忙を極められる中、相当の時間と労力を費やしていただいたことに改めてお礼申し上げたい。

都市研究史をおさえられた後、近世都市京都の全体構造を概観するうえで、秀吉の御土居築造に始まる城下町化から説き起こされ、空間を次の五つに分類された。⑴禁裏・公家町、⑵武家地/武家屋敷、⑶寺社地、⑷町人地、⑸遊郭社会

都市周縁部の賤民身分の人々の居住地も都市の存在を支える要素として重視されていることも印象に残った。また、水害対策としての「寛文の新堤」、大火による「公家町の再編」など京都を動態として捉えることの重要性にも触れられた。

Ⅱで紹介された「三条油小路町町並絵巻」はたいへん興味深いものがあった。文政 3 年（1830）に作成されたという油小路の東西それぞれの町並みの様子を描いた絵巻で、当時の町民の居住実態がリアルに再現されている。行き交う人々の風俗、住人の職業など細部まで見て取れる重要な史料である。1,800 もの町からなる町人地の街並みのひとつが活写されている。「鋳物師釜屋庄三郎」の居宅には、茶釜、吊り燈籠、五徳、鉄瓶など、具体的な商品が積み上げられている様子などはその例である。ネットでいつでも検索閲覧できるので、ご興味のある方はぜひご覧いただきたい。

Ⅲでは町の住人＝家持の 16 世紀から 18 世紀にかけての変遷を三段階に整理された。有力商人や大資本が町中の取り決めをなし崩しにして居住実態が変貌していく過程がよくわかった。個々の町空間・社会のあり方の分析を積み上げられることで、京都の都市史を考察される有意義な研究である。

（入江　成治　記）

京都地名研究会への入会案内

千年の都、京都。ここを起点として近畿から国の内外に及び地名を広く細かく蒐集し、比較調査して、地名を学ぶ学会です。地名は歴史の鏡であり、文化を盛る器です。私たちの暮らしのもとにある地名に目を向けて、日本の文化と歴史認識をいっそう深め、地域の知的活性化に役立ちたいと念じます。年齢、職業などの如何を問わず、いつでも、どなたでも、地名文化に関心をもたれる方々のご参加を歓迎し、ご協力もお願いします。入会金不要。

詳細はホームページをご覧ください。

年会費	3000 円
賛助会員・理事	5000 円
家族会員	1000 円

お問い合わせ先

京都地名研究会事務局　入江　成治

E-mail : kyotochimei@gmail.com

会費納入先　口座名　ゆうちょ銀行

加入者名：京都地名研究会

口座記号番号：00910-1-160705

本会ホームページアドレス

https://kyotochimei.wixsite.com/kyotochimei